

第6回 鳳来北西部地域協議会 会議録（要約）

日 時	令和3年11月16日（火） 午後7時～午後9時5分
場 所	玖老勢コミュニティプラザ 1階 多目的室
出席者	委員 19名 事務局 6名
傍聴人数	なし
次 第	<p>1 あいさつ</p> <p>2 地域計画及び地域マネージャー制度について</p> <p>3 地域計画の進捗確認・見直しなどについて</p> <p>4 その他 今後のスケジュールについて 地域自治区予算事業計画の資料修正について</p>
<p>1 あいさつ 原田会長よりあいさつ 会議に先立ち、下記の委員を議事録署名人として指名。 【議事録署名人】 『名簿10番』城田幸夫委員 『名簿11番』筒井群治委員</p> <p>2 地域計画及び地域マネージャー制度について ・事務局より資料に沿って説明。 【質疑応答】 (委員) 説明を聞いたがよく分からなかった。なぜ必要性があるのかという部分が疑問である。行政からの形式的な提案に感じられた。 (事務局) 地域協議会は協議する組織であり、主な役割として地域自治区予算の提案、地域活動交付金の審査、諮問・答申の3つとなっている。地域計画を実行していくためには実行する組織が必要であり、それをリードしていくのが地域マネージャーである。 (委員) 地域協議会が協議の場であり、これまでは実行するのは行政の役目であったが、この制度はその全てを地域に任せるものなのか。地域協議会が、地域マネージャーを兼ねれば良いのではないのか。地域には人が少なく対応できないので、こ</p>	

の部分も考えてもらえればと思う。

(事務局)

地域協議会が実行組織も兼ねることも考えられるかもしれないが、地域計画をどのように推進していくかを先に考え、その先に地域マネージャーの導入について考える事もできるかもしれない。まずは鳳来北西部としてどのように地域計画を推進していくのがよいかを検討していき、最終的に地域マネージャーが必要となるかもしれないし、そうではないかもしれない。今後どうすべきかを考えたいと思う。

(委員)

地域協議会には、各地区の代表者が集まっているので、もっと深い議論をするべきだと思っている。地域協議会で話し合い、それでも足りないようであれば、その先を考えれば良い。

(事務局)

今回をチャンスとして、地域協議会の在り方も含めて考えたい。

(委員)

地域マネージャーは、全ての地域自治区で考えていくのか。

(事務局)

その予定だが、それぞれの地域自治区ごとに、可能性を考えていくことになる。

(委員)

地域に人が少ないので、実行組織は難しいのではないかと。実行まで考えることはどうなのかと思う。地域協議会の人選が当て職であり、委員が毎年代わってしまうことの方が問題なのではないか。

(事務局)

地域協議会の人選や、運営体制についても意見をもらいながら、話し合いを進めていきたい。

(委員)

今年度の地域協議会の回数も限られているので、やるのであればしっかりと議論しなくてはいけない。そうでなければ、来年度の初めから検討しても良いのではないかと。地域協議会の回数はどのように決めているか。

(事務局)

例年のスケジュールを参考としている。地域協議会の回数についても検討できればと思う。今回地域マネージャーという言葉は初めて出したが、まずはこの地域で策定した地域計画を推進していくためにはどういった方法がベストなのかを皆さんと検討していきたいと思う。

(委員)

地域マネージャーは何人を想定しているのか。

(事務局)

今現在市で検討しているのは1人を選任し、リーダーとして地域の組織と連携して活動していくイメージで考えている。

(委員)

四谷地区の例を紹介したい。「四谷のはねこみ」の記録を残す活動をしているが、実行部隊は若者で、自分ともう1人の委員がサポートし、行政にも協力してもらっている。活動するにしても、1年では分からない部分も多く、自分がこれまで地域協議会に関わってきた経験を活かしてサポートしている。また、四谷には千枚田保存会や、女性の組織、棚田振興法の補助事業で活動している団体がある。複数の団体をまとめる必要があるが、地域マネージャーの役割はそのようなことなのではと理解している。実際に地域マネージャーを受けられる人を見ると、時間に余裕がある60代の人にやってもらうのがいいのではと思っている。

(委員)

今の意見はよく分かった。地域マネージャーは、市と地域の間に入る人なのか。

(会長)

この地域には人が少ないため負担が大きくなる。今後はどのように負担軽減を図っていくのかを考える必要がある。他の地域協議会では、若者や女性が多く加わっている地域もあり、それらの地域では新しいアイデアが多く出ている。地域マネージャーの形にこだわるのか、鳳来北西部独自の進め方を考えるのかとすることになるかもしれない。自分自身は、地域マネージャーはこの地域には難しいのではと思っている。地域協議会が、もっと幅広い意見を吸い上げる組織になるための構成を考えた方が良いのではと思う。

(委員)

今後の課題として考えればいいのではないか。

(事務局)

次第ではこの後、地域計画の進捗確認と見直しについて検討する予定であったが、このテーマで多くの意見をいただいているので、会長と協議し予定を変更して、今後の地域協議会について分科会ごとに意見交換をしてもらうこととした。委員の皆さんの率直な意見をいただきたい。

～ 分科会ごと意見交換 ～

●分科会での意見交換について報告

「地域振興分科会」(原田守分科会長)

- ・地域マネージャーについての前に地域協議会について話し合った。
- ・人が減っており負担になっているので、負担軽減が必要
- ・この地域は高齢化も問題だが、若者が委員になることも大変
- ・本当は若者に地域協議会委員をやってもらいたい
- ・新しいことを始めようとする、それぞれに新しい「お役」ができるので大変
- ・地域協議会の人数は適切
- ・委員の選出は2年以上委員を務められる人を選んだ方がよい
- ・女性の意見をもっと聞くべきで、意見を出してもらえればと思う

- ・若者でも参加してもらえれば入ってもらった方が良い
- ・選出は地区ごとに決めてもらっているが、もう一度考えてもらいたい
- ・会議の回数は、今のままでいいと思う
- ・来年は地域自治区制度が始まって10年目を迎えるので、もう一度考えてもらえればと思う

「子育て分科会」(原田秀憲分科会長)

- ・どうして市の仕事を地域でやらなければいけないのか、よく分からないところから委員を始めており、今もよく分からない部分がある
- ・毎年決められた金額の使い道についての話し合いになっているようにみえる
- ・本来、委員は複数年やってもらう方が良いと思うが、人選は難しくなる
- ・分科会長は経験年数の多い委員にやってもらいたい
- ・女性委員として選出されているが、地域協議会では意見を出しにくい、意味があるのかと感じる部分もある
- ・気軽に意見を出しやすい雰囲気を作ってもらいたい
- ・若者を委員にという意見もあったが、実際は難しいと思う
- ・長期的に地域のことを考えるのであれば、地域協議会の回数を増やしてはどうか
- ・事業ごとに3カ年計画で予算を考える事はできないか

「生き生き分科会」(村雲副会長)

- ・話し合いで出された意見はだいたい2つの分科会で出されたが、新しい組織を作るよりも、地域協議会の在り方を考えて問題点を解決していく方が良いのではという話であった。

3 その他

- ・事務局より今後のスケジュール等について説明。
- ・本日検討予定であった地域計画の進捗状況については、配布した資料に目を通してもらい今後の検討の材料としてほしい。

(1) 今後のスケジュールについて

- ・地域活動交付金の募集については、11月16日付けの区長文書配布で募集チラシを送付した。募集期間は令和3年12月13日から令和4年1月28日まで。
- ・第7回地域協議会は、1月18日(火)19時から開催

(2) 令和4年度鳳来北西部地域自治区予算事業計画について

- ・地域自治区予算事業計画を検討する際に作成した資料の一部誤りがあったため、修正した旨を報告。建議した予算額の変更はない。

【質疑応答】

(委員)

来年度の地域活動交付金について、変更点や注意すべき点はあるか。

(事務局)

特に変更はない。申請を考えている団体は、まず事務局に相談してもらいたい。

事務所長挨拶により終了（21時05分）